

令和5年度校内研究 低学年分科会提案

令和6年1月31日
杉並区立富士見丘小学校
低学年分科会

1 研究主題について

《 研究主題 》

学びの構造転換「キャリア教育の推進」

～すべての子どもが、なりたい自分になるために～

低学年キャリア教育目標

◎自分の良さや苦手なことに気付く 【自己理解・自己管理能力】

◎自分のやるべきことに最後まで取り組む 【課題解決能力】

◎相手の気持ちを考えた行動をする 【人間関係形成・社会形成能力】

◎だれかのためにすすんで行動する 【キャリアプランニング能力】

本校の低学年の課題として、困難なことを途中で投げ出してしまい最後までやり遂げることが難しい点や、相手の気持ちを考えずに自分本位の行動や発言をしてしまう点が挙げられる。そこで、児童一人ひとりが自分の良さや苦手なことに向き合うことで自分を伸ばすための方向性をつかみ、やるべきことは最後まで諦めずに取り組む粘り強さと、学校という場で多くの人と関わりながら生活していることを認識して、周りの人へ配慮しながら行動できる力を身につけてほしいと考えた。これらの力をベースにして、この先自分がどのような人間になりたいかを追究できる力をつけてほしい。

2 目指す学びと指導の工夫

(1) 主体的な学び

○導入

本単元に入る前に、詩の良さや楽しみ方に触れたり、言葉による様々な表現の仕方を学んだりすることによって、「自分でも詩を書いてみたい」、「身の回りの出来事や自分の気持ちを詩で表現してみたい」という気持ちを喚起させていきたい。形に囚われず自由に表現できることを知ることによって、児童が主体的に取り組めると考える。また、自校で作成した「アンテナ」を活用し、同学年の子ども達が書いた詩を読むことにより、親しみを持って作品に触れられると考えた。情景を思い浮かべたり、感情移入しやすかったりする良さがあると考えた。本時では始めに自分の詩の良さを確認することで、それぞれの詩には必ず良い部分があることに気づき、お互いにその良さを認め合おうとする姿勢を期待したい。

2) 対話的な学び

◎対話の形態

本時の詩に対する感想を伝え合う活動で、個→グループ→個という流れで学習を進めることで、自分の詩の新たな良さに気づき、自分の良いところを見つめ直すきっかけになると考える。友だちから感想を率直に述べてもらうことで、自分の作品への肯定感が高まると同時に、自分自身への自信にもつながることだろう。そのためにも、子ども達の率直な意見交換が行われるよう働きかけていきたい。

◎交流の工夫

感想を交流する際に、あらかじめ指定したグループで交流の仕方を一度経験した後、フリートークの時間を設け、子ども達が自分で友だちの詩を選んで味わえるようにした。全員が自分の詩について集中的に感想を述べてもらえる時間があることで、自己肯定感が高まると考えられる。また、感想交流の視点を「表現の良さ、おもしろさ」と明確にし、考えを共有しやすくした。

(3) 深い学び

○図書の活用

図書館で友だちに紹介したい詩を探すことで、多くの種類の詩に触れ、多様な表現方法を知るとともに、詩の伝えたいメッセージを読み取ろうとする機会になると考えた。

3 分科会として見ていただきたい視点（本時の学習）

視点1 感想交流の方法や形態は、児童が自分の詩の良さに気付く上で有効だったか。

視点2 国語としての目標及びキャリア教育としての目標を達成するための教員の言葉や行動、価値付けは適切だったか。

※ 以上の視点をもとに、グループ協議をお願いいたします。